

輸血・細胞治療部

1 構成員

	平成21年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
委員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	1人

2 教員の異動状況

中辻 理子（講師）（S61. 7. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（0編）
そのインパクトファクターの合計	不明
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	不明

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- (1) Tadako Nakatsuji, Common gastric and colon(GC) carcinoma with an anomaly in the GC amylase(AMY) gene and good prognosis: clinical findings of common GC carcinoma. Comp

Clin Pathol 18:29-37, 2009.

- (2) Tadako Nakatsuji, Rat chronic graft versus host disease (GvHD) analyses with no chronic GvHD system findings. Archives of Hellenic Medicine 26: 98-106, 2009.

インパクトファクターの小計 [不明]

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	0件	

- (2) 国内学会の開催・参加

- 4) 座長をした学会名

日本輸血細胞治療学会 東海支部会

- (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本細胞治療学会 評議員

日本細胞治療学会東海支部会 幹事

静岡県輸血懇話会 常任幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 動物を用いた骨髄移植と人癌発生メカニズムとその治療
骨髄移植においては、急性GvHDと拒絶反応の抑制実験系の確立。
静岡県在住の人消化器癌の特性を明らかにし、最善の治療法を考案。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 動物（ラット）を用いた骨髄移植においては、慢性GvHD反応の発生をより完全に抑制する実験系を継続性課題とし、人間の骨髄移植に応用していく予定。
2. 静岡県在住の人消化器系癌発生メカニズムと特性について明らかにしたが、今後、数々の臓器癌における癌の発生メカニズムとその最善治療の解明を予定。